

令和4年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・発達段階や運動経験に応じ、運動の楽しさを味わえるようなルールや課題を設定することで主体的に学習に取り組む態度を育むことができた。
- ・ICTの活用により、運動の技能ポイントの理解や、運動中の気付きや工夫した表現、客観的に学習を振り返ることができた。

(2) 課題

- ・体力テストの結果を見ると、学校全体で持久力や敏捷性に課題が見られる。
- ・昨年度の授業改善プランの取り組みにおいて、指導内容や評価規準の統一性が低い単元(ゲーム領域やボール運動領域)や学習カードなどの共有が少ないことがあった。学年内での情報の共有や学習カードの電子化を推し進め、学校全体で系統性のある指導をしていく必要がある。

2 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・持久力を高めるために、授業の中で、マラソンや縄跳びに取り組む時間を設定する。・スモールステップで楽しみながら、主運動につながる運動を行い、場の工夫や発達段階に合わせた用具を選び、基本的な動き方や用具の使い方の経験を幅広く身に付けることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・ペア学習を取り入れ、互いの運動を見合う時間を設定し、考えを伝え合えるようにする。・ICT機器を活用する。運動の様子を撮影した動画を見ることで、改善点を考えたり、他者に伝えたりする。・学習カードを活用し、めあてをもって運動し、振り返りができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・教師が積極的に言葉がけをしたり、応援したりすることで、児童が前向きに運動に取り組める雰囲気をつくる。・良い学習姿勢(きまりを守る、友達と協力する等)を教師が認め、全体に共有するようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が成功体験を得やすいように、課題やルール、場や用具等が緩和された運動を行い、運動技能の確実な定着を図る。 ・ 手本動画を見せて、技能ポイントを正しく理解できるようにする。 ・ 持久力を高めるために、授業中に「縄跳びタイム」や「持久走タイム」などを帯で設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ トリオ学習を取り入れ、互いの運動を見合う時間やアドバイスなど考えを伝え合える時間を設けるようにする。 ・ 掲示物を工夫し、児童が自己に課題に適した運動の行い方や場を選ぶことができるようにする。 ・ 学習カードを工夫し、児童が気付いたことや大切だと思ったことを書けるようにする。 ・ 自己の運動の様子をタブレットで確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題やルール、場や用具等を簡易化したり変更したりすることで、運動の楽しさを味わわせるとともに、きまりを守り誰とでも仲よく運動をすることのよさを感じられるようにする。 ・ 互いに見合い、教え合いをする学習の仕組みや、振り返りの場面などで、友達同士で学習の成果を認め合うようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達段階や運動経験に応じ、場やルールを簡易化したり変更したりすることで、運動技能の確実な定着を図る。 ・ 活動前後に手本となる動画を見せたり、自分の試技を録画して見比べさせたりすることで、技能ポイントを正しく理解したり、見付けたりできるようにする。 ・ 持久力向上のために 5 分間走をしたり、俊敏性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達段階や運動経験に応じ、場やルールを選んだり変更したりすることで、自己に適した課題を見付けられるようにする。 ・ 活動前後に手本となる動画を見せたり、自分の試技を録画して見比べさせたりすることで、自己の能力に適した課題の解決の仕方や工夫ができるようにする。 ・ グループ学習や ICT 機 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達段階や運動経験に応じ、場やルールを簡易化したり変更したりすることで、運動の楽しさを味わわせるとともに、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 ・ 活動前後に手本となる動画を見せたり、自分の試技を録画して見比べさせたりすることで、自分

<p>向上のためにラダートレーニングをしたり、授業の導入で継続的に取り組むことができる活動を行うことで、体力の向上を図る。</p>	<p>器の活用を通して、自己の能力を客観的に捉えることで、自己の工夫、課題などを見付けることができるようにする。さらに、自己や仲間の考えを他者に伝えることができるようにする。</p>	<p>がねらいとする動きを身に付けるまでの学習の見通しをもちやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none">・毎時のめあてや単元のゴールイメージを明確にもつことで、自分の成長を実感できるようにする。
---	---	--